

感動デザイン工学研究所の成果が出版

“次のものづくり”のための感動商品開発を

感動デザイン工学研究所では、本年6月に朝倉書店から「感動と商品開発の心理学」(神宮英夫編著)を刊行した。この本は、実践心理学講座全10巻(海保博之監修)の10巻目として企画されたものである。執筆者は、本研究所の所員で、心理情報学科の教員5名と、メディア情報学科と情報学科と基礎実技教育課程の教員各1名、共同研究員の外部の大学から2名、5社の連携企業からの5名の、計15名である。

本研究所は、“お客様のこころを動かすものづくり”を目指した研究をおこなってきた。本当にこころが動いたのかどうかという測定・評価技術の開発、五感情報に着目したものづくりのシステム提案、このよくなものづくりができる人材育成システムの開発、の3プロジェクトで活動しており、これらの内容に対応した章と応用事例とで、本書は構成されている。

日本のものづくりの現状は、環境技術などいくつかの分野でなんとか優位を保っているが、技術移転によりいずれ近隣の諸国から追いつかれてしまうことは十分に予想される。次のものづくりの視点として、感性や感動のような人のこころの働きが重要であるとは様々な分野で認識されている。しかし、具体的には何をどのようにすればよいのかは明らかではない。実際、なかなかこのような製品が開発できずにいるのが現状である。このことを実現するため技術開発を目指して、本研究所は活動しており、この一つの成果として本書がまとめられた。

“次の日本のものづくり”、このために「感動」を明らかにして、設計品質化へつなげる必要がある。感動はこころの働きであり、心理学はこのようなこころの働きを研究する学問である。心理学が、**engineering psychology** (ものづくり心理学)として、どこまでもものづくりに寄与できるかを追求しようということが、本書の目的である。

朝倉 実践心理学講座

10

海保博之 監修

感動と商品開発 の心理学

神宮英夫 [編]

朝倉書店